

おろし
⑪八高寮歌伊吹風歌碑

「伊吹おろし」は、名古屋大学の包括校にあたる第八高等学校（八高）の寮歌で、1916年に作られました。八高寮歌は「伊吹おろし」以外にも数多くあり、「伊吹おろし」が作られる前でもすでに5曲ありました。この年はじめて八高の寮歌集を作成することとなり、新たな寮歌を寮内だけではなく校内へも掲示公募して採用された3曲の一つが「伊吹おろし」です。「伊吹おろし」が八高寮歌の代表歌となったのは、この寮歌集が刊行され、広く一般に流布したことと関係あるのではないかと思います。作詞は中山久氏、作曲は三橋要次郎氏（八高第8回卒業）で、全国の寮歌の中でもっとも優美で、ロマンチックな寮歌といわれているそうです。八高生にかぎらず、当時名古屋の中学生や女高生にも歌われていました。現在の名古屋大学でも、体育会を中心に歌いつがれています。

歌碑は、1958年に八高創立五十周年を記念し、鶴舞公園内の鶴舞図書館前に建設されました。鶴舞公園が選ばれたのは、旧市街から八高へ行く途中にあつて八高生が通学の際必ずここを通つていったからです。

歌碑の敷石は岡山県北木島産の白御影石、台座石は福島県浮金村産の黒御影石（浮金石）、碑面は岡山県万成山産の紅御影石（万成石）という、赤白黒の三色を調和させてすっきりつくられています。これは八高の清潔な校風を示しているといわれています。また碑には楽譜が刻まれており、これは曲碑といつて当時としては極めて少ない珍しい碑でしたが、永く青少年に歌いつがれることを願つて、このような歌碑にしたそうです。

碑の設計は浜田稔氏（当時東京大学教授、八高第12回卒業）が、建設事務はおもに浜島敏雄氏（当時愛知県建築部長、八高第20回卒業）が担当しました。なお碑陰には6月1日と刻まれています。これは五十周年記念祭が行われた日であり、実際の除幕式は9月に行われています。

